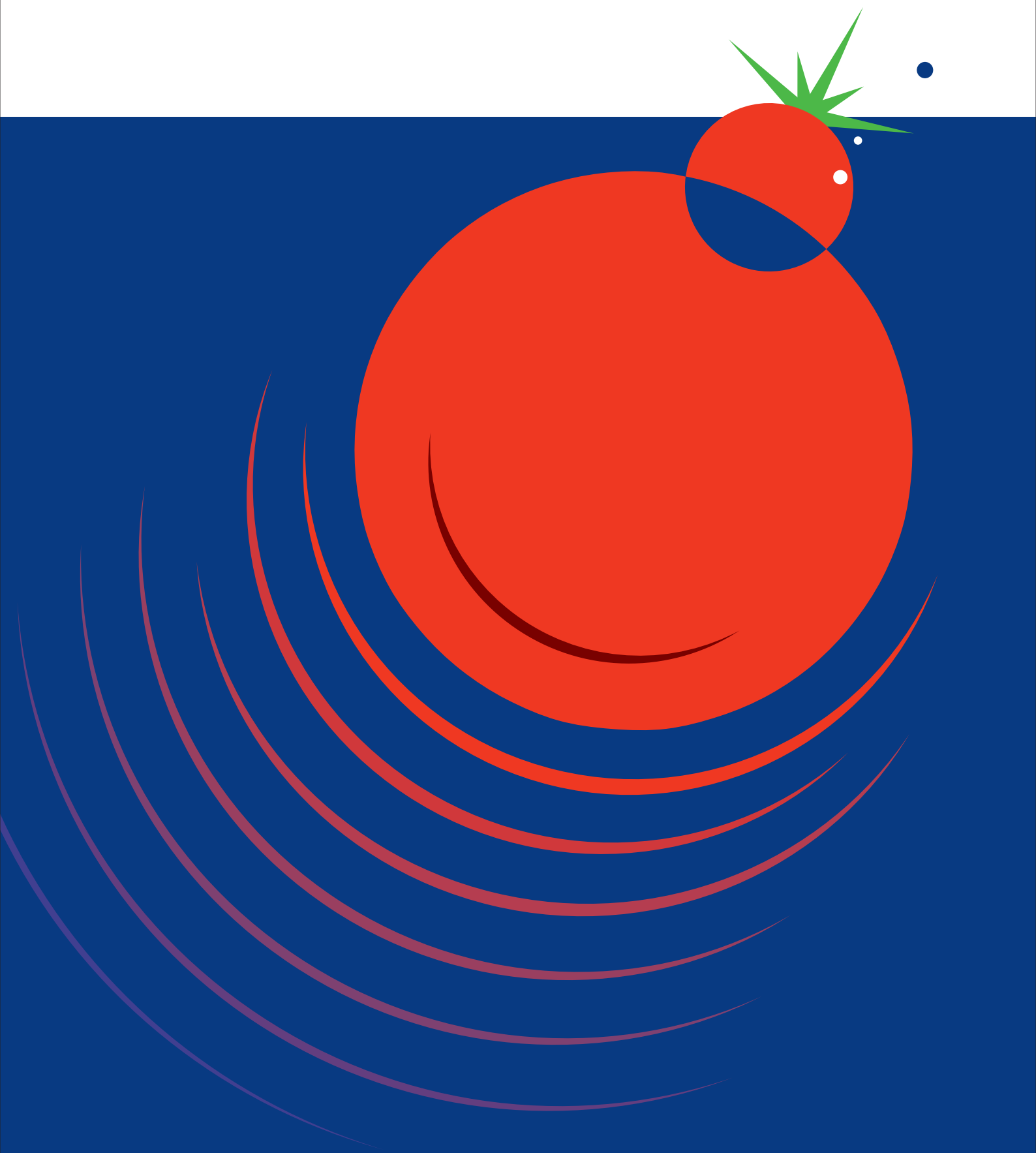


京都デザイン賞 2023

入賞・入選作品



公益社団法人 京都デザイン協会

京都デザイン協会は、第一線で活躍するデザイナー及びデザイン関係者を結集し、デザインを通じて京都の地域産業振興と、豊かな生活環境の形成に寄与することを目的として、1967年5月に京都デザイン協議会として発足、1979年に京都デザイン協会と改名、1981年に社団法人京都デザイン協会に移行し、2013年6月には公益社団法人京都デザイン協会の認可を受け活動を継続しています。

「京都デザイン賞」の入賞・入選作品は、2009年度の第1回以来、京都の伝統と文化を守りながら、新たなデザイン手法を用いて、新しい京都のデザイン創出を図る作品を発見、顕彰、そしてその良さを広報し、流通に載せる一助を担うことを目的として公募し、応募された作品の中から、審査により厳選された優秀作品です。

第15回の今回は78点の応募作品から、25点の入賞・入選作品を選出、その中から京都デザイン賞 大賞2点、京都府知事賞、京都市長賞、京都商工会議所会頭賞、京都新聞賞、課題部門4課題への各賞、学生賞（画箋堂賞）をそれぞれ1点ずつの選出を心がけました。大賞は第1～第5部門、第6部門から各1点を選出し、課題部門の第4部門-④（布小物）は該当無しとなりました。

新型コロナが5類に移行し、様子を見ながらの活動が再開される中、今回も多くの方々の協力をいただき、「京都デザイン賞2023」の入賞・入選作品をここにご紹介させていただきますことを、あらためて感謝申し上げます。

私たちは今後とも「京都デザイン賞」で選出した優秀な作品を、「京都発21世紀の大きな波」となることを願い、日本、世界へ向け発信していく所存ですので、より一層のお力添えをお願い申し上げます。

2023年11月

主催者 公益社団法人 京都デザイン協会

理事長 奈良 磐雄

新井 清一

（建築家／ARAI ARCHITECTS代表取締役／京都精華大学名誉教授）

本年度の京都デザイン賞の第6部門である、①建築デザイン、②インテリアデザイン、及び③造園/環境デザインにおいて、前述のデザイン領域に呼応する作品が選出された事は好ましく思う。建築、及びそれらを取りまく環境は、視覚、体感はもとより音、触覚、などの感性に関わることと、さらに用途、場所という具体性を伴う事象の相関性を持ちながらに我々、人々に訴えてくるものである。それらの場としての空間要素の舞台が何なのかが重要になってくる。その意味において、今回の各作品はバラエティーに富んでいて、楽しく審査を行うことが出来た。

建築部門大賞の「インダ本社」の舞台の場は京都。その街並み都市、景観であり、まさしく京都の景観条例に呼応する佇まいを魅せている。住宅周辺環境への配慮から、その形態は企業本社の建物なのかと確認したくなるイメージを持っている。ファサードの分節に於いてのエレメントは適宜配置された各種素材による重なり合いにより生み出されている。素材はアルミ、コンクリート、石であり、これらが横ルーバー、庇、塀、そして段丘状にセットバックされた金属屋根が60mの水平方向の流れとして集結している。既存の庭の再配置が施された外部空間と隣接するエントランスホールには、インテリアの杉ルーバー天井が配され、内外の調和された表現が施されている。

市長賞の「黒」が織りなす空間」の場は、インテリア内部空間が舞台である。プラスチック（素材感を消すような）な白の建築の対比としての黒の空間は一体どのような空間なのであろう。興味がそそられる。黒を基調とし、10種類もの素材を明暗、光と影、暗闇のキーワード駆使し織り込まれた空間構成は、提出されたパネルから寺院、仏閣の闇をも伺わせる雰囲気醸し出される。何よりも体感をしてみたいと思わせるインテリアであり、その舞台に居たいなと思える空間の創生研究プロジェクトであらう。

インテリアの部門での入選「伝統工芸とオノマトペ」もグラフィック部門にも通ずる提案ではあるが、プレゼンテーションブース空間展示が舞台であるユニークな提案であった。また、「BAR kingdom」は町屋の改修計画であるが、カウンターを中心としたbarのしつらえを質素に表現した作品であらう。第3部門の入選作品「モザイク」はパーツによる構成で、多様な形態創造の機会を提供する作品。最小の単位から最大のものへのコンセプトに通ずるパーツの提案で、デザイナーはあなたなのだと、試作品を展示されていました。「FLAT KYOTO」は、平面からジョイントを介したテンションにより、京都の盆地山並みを表現したコースターです。「都鶴」は羽をたたみ、水辺で休んでいる鶴のイメージが感じられる作品です。白の緩衝材フォーム、その裏面の黒、そしてキャップの色合いが遠くから見ても都鶴と認知できるでしょう。

滝口 洋子

(ファッションデザイナー／京都市立芸術大学教授)

京都ではこれまでも時間軸を大切にしたデザインが引き継がれてきました。

最近世間で注目されている持続可能な世界への考え方も、京都では伝統や文化を守るなかで無理なく自然と行われてきたのでしょう。それらを現代の暮らしの中で見つめ直し、次世代へと伝えるためのヒントが、今回応募作品の中にたくさん見つけられたように思います。

学生賞の「めくれるポスター めくりめぐる京都」はめくるという行為によって違う次元の京都を示すユニークな作品です。京都タワーがティラミスに、金閣寺が生ハツ橋に、と1枚目のイメージを活かしながら全く新しいビジュアルが現れます。おおらかなフォルムと色使いに新鮮さを感じました。

「トートガマ」はがま口とトートバッグが融合したバッグで、がま口の持つコロンとした可愛らしいフォルムを特徴としています。金具ではなく革にマグネット使いの取っ手が大きく開いてA4横サイズが楽に収納でき、何より軽く、どんな服装にもコーディネートがしやすいそうです。

「sou・sou 華包」は江戸時代の花傳書から伝わる季節の花の包み方を、現代生活の中に掛け花や置き花として復活させるという華道家の研究会監修の提案です。

1輪の花、1本の枝をしつらえることで演出できる大きな可能性があります。

「kimono kirumono CYCLE PROJECT」では和裁の伝統技術を活かしたサーキュラーデザインへのアプローチです。和服を洋服にリメイクすることはこれまでもありましたが、解いて仕立て直す着物のサイクルの中に洋服も取り込んだところが新しい視点です。展示されたコート以外のアイテムも広く開発されているそうで興味深く思いました。



中島 信也

(株式会社東北新社エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター／CM演出家／武蔵野美術大学客員教授)

AIをはじめとしてこれだけコンピュータテクノロジーとネットワーク技術が進化してくるとデザインはいよいよ「発想」と「目利き」の時代に突入するんだな、という実感を持ちます。

「発想」と「目利き」。これは「デザイン」において大切なものは何か？という問いかけにたいして前々から言われてきたことではあります。でもここへきてますます「発想」つまり「何をどうしたいか？」「これはこうしたら良いのではないか？」ということこそが重要で、その実現、アウトプットは電子頭脳やら機械に手伝ってもらったらいつかは可能になるのでは、という感覚が強まっています。

それと「目利き」。これは、どんな手段を使ってるかはともかく、出上来がりにたいして「ええな」「あかんな」という判断をする能力。「良いものを愛でる力」とも言えるかもしれない。この「発想」と「目利き」の重要性。極端に言うと、今やこの「発想」と「目利き」さえあれば、デザインを実現する工作能力は問いません、という世界に突入するのでは、という想像が働きます。

しかし！京都デザイン賞の舞台「京都」。京都の文化と切ってもきれないのが「工芸」。これは千年以上にわたって磨き上げてきた「人の手による匠の技」の結晶。それはもちろん京都に限ったことではありませんが、この「匠の技」の存在が「京都デザイン賞」を考えるにあたって強く意識に上ってきます。

「さすが京都やなあ」と言わしめる「匠の技」をどう捉えていくのか？それはデザインや建築において今後どういう価値を持ち、どう評価していくのか？これはAIやコンピュータテクノロジーの波が押し寄せている京都における産業全体に影響を及ぼす問題として注視したい、と思います。そしてこの波を受けながらも「京都デザイン」がますます豊かなものとして発展することを祈念してやみません。



村田 智明

(株式会社ハーズ実験デザイン研究所 代表取締役／大阪公立大学 研究推進機構21世紀科学研究センター イノベーション教育研究所 客員教授／九州大学非常勤講師／愛知県立芸術大学非常勤講師)

1~5部門の大賞となった「ボクジュール」は、忘れていた墨を擦る行為を喚起させるだけでなく、年代物のワインに価値があるように、墨が時間とともに色や香りが変わるところに目を向けた視点が新しい。持ち手を細くした擦りやすさとワインボトルに見立てたウィットに「ニヤリ」とさせられた。

京都商工会議所会頭賞の「サイドゴア革足袋」は、現代和装を意識した地下足袋だが、皮革の上質感とアウトソールのひらがな文字が地下足袋のイメージを一転させている。ひらがながちりばめられる路面の足跡とそれに反応する人を想像するとこれも「ニヤリ」ではと思う。

入選された「カメレオンバンド」はアップルウォッチ用の革バンド。ただの革バンドが多く出回っている中で、表の手染めの絹友禅と裏の牛革を縫い合わせて、唯一無二の個性を醸し出している。同じく入選された「ひとりじゃないかも」は、鴨川の河川敷の日常の一コマを切り取ったシンプルなグラフィック。対岸に腰掛ける人や川に佇む鳥たち、それぞれはひとりなのに、切り取った枠の中では「ひとりじゃない」って気付かせられる不思議な説得力があるようだ。言葉尻の「かも」にも「ニヤリ」とさせられた。

「ニヤリ」とは、観る人に語り掛ける力があって尚且つ、「へ〜」、「なるほど」、「そう来たか」と共感させ感嘆させること。見慣れた光景には人を立ち止まらせる力が無い、だからこそ、「ニヤリ」作戦が生きるのだと思う。

八木 義博

(株式会社電通 エグゼクティブ・クリエイティブディレクター／京都芸術大学 客員教授)

今年も京都というテーマで、平面から立体、建築・インテリアと多岐に作品が集まってきており、楽しく審査をすることができました。建築部門の大賞「イシダ本社」は、建築的なクオリティの視点で見ても様々な工夫や新しさがあがり、議論を聞いていて感心させられました。また、専門的な知識がなくても感覚的にも良さが伝わってくる仕事だと感じ、そのことは本当に素晴らしいと思います。

もうひとつの大賞「ボクジュール」は墨というある意味では陳腐化している商品にデザインの力で新しい価値を見出していると思います。実際のデザインもサイズ感や持った感触など丁寧に仕事されている仕事で好感が持てました。

京都府知事賞に輝いた「時を超えて・祇園祭 2023」ポスターは、よくある感じの祇園祭の表現に留まらないで、京都らしさやコミュニケーションとして意表をつくことを忘れていない、挑戦とプロの仕事を感じました。

学生賞「めくりめぐる京都」は提案性のあるポスター作品で、とても元気のあるデザインでしたし、他にも「サイドゴア革足袋」やマスキングテープ「参拝マステ」といったユニークな作品が入賞し、粒揃いのラインナップになったと思います。



Bokujour

迫 健太郎・松沢 洋祐

“製造された西暦”で選んで楽しむ、まるでワインのような書道用の墨ブランド「Bokujour (ボクジュール)」のコンセプト提案です。

私たちは知りませんでした。墨は、製造されてからあえて時間をかけて保管することで素材が熟成され、より深みのある墨に進化することを。

まるでワインのような世界観をきっかけにすることで、若い世代の人たちにも、もっと書道を楽しんでもらいたい。そして、あらゆるものがデジタルに置

き換わる時代に、手でしたための書道の文化を残すことにつながるのではないかと考えました。

あの人の生まれ年の墨を選んで贈るもよし。結婚したら、その年に作られた墨を買って、毎年の年初めに家族で書き初めをするもよし。墨が製造された西暦に、あなただけの意味を込めて。





大賞

<第6部門>

イシダ本社

株式会社 竹中工務店

小幡 剛也・伊藤 剛・天野 直紀 (※元社員)・向山 雅之・川添 浩輝

世界的な計量器メーカー・イシダの本社の建替え計画である。

京都・聖護院において周囲に住宅が立ち並ぶ周辺環境の下、既存の庭園を残しながら東山の山並みに呼応した段丘上の水平庇を設け、京都の街並みに溶け込むヒューマンスケールの本社を計画した。

車の往来が多い通りから一歩中に入れば、庭園とつながる静かで豊かな空間

が広がっている。京都市で邸宅のような「奥ゆかしさ」のある本社を目指した。

〒541 - 0053 大阪市中央区本町4-1-13 御堂ビル

TEL : 06-6263-9735 FAX : 06-6263-9730

E-mail : itou.gou@takenaka.co.jp



文化支援キャンペーン
「時を超えて・祇園祭 2023」ポスター

グラフィックデザイナー（フリー）
辻田 和樹

文化支援キャンペーン「時を超えて・祇園祭 2023」の
PR用公式ポスター（京都新聞提唱）

祇園祭の継承と発展を提唱する同キャンペーンは、1995年にプレとして翌96年から本格的に展開され今年で29年間継続されている。

ポスター全体は祇園祭宵山に灯される駒形提灯をイメージ。黄色の提灯は「前祭」、白色の提灯は「後祭」を意味し、提灯をそれぞれの山鉦町の位置にレイアウトした。各山鉦の紋章を提灯の中央に置かずあえて左右に少しづつずらし、風に揺れる提灯とともに祇園祭の熱気、歴史を表現。これからも京都の誇る文化遺産である祇園祭が未来へつなげていくことを願いデザインした。

〒612-8083 京都市伏見区京町6丁目67-1
TEL : 080-3136-0609 FAX : 075-602-2188
E-mail : kazuki-t@kyoto.zaq.ne.jp



「黒」が織りなす空間

空間工房 用舎行蔵 一級建築士事務所
河野 太郎

このプロジェクトは、黒一色で仕上げられた住宅のリノベーション案件です。

世界中の MATERIAL から厳選した15以上の材料と20以上の黒色を使用して空間を構成しています。

それらの素材を自然光やライティングによる効果的な照明計画で、住宅とは思えない空間を子育てにも適した空間にできたと自負しています。

また、回遊式動線による実面積を超える広がり、機能部を目に触れない配置計画により機能的で有りながら生活感を見せない空間構成にしています。

すでにこの住宅は、時事刻々、日々刻々と移り変わる姿で、家族を飽きることなく魅了し続けています。

〒602 - 0914 京都市上京区花立町486
TEL : 075-432-3883
URL : <http://yosyakozo.jp/>
E-mail : info@yosyakozo.jp





京都商工会議所会頭賞

<第3部門>

サイドゴア 革足袋

SOU・SOU

サイドゴアブーツの形を取り入れたデザインのレザー地下足袋。本物の地下足袋工場で作られたこのレザー地下足袋は、ゴム工業の発祥地として100年以上の歴史を有する兵庫県高砂市で生産しています。

販売価格（税別）：18,000円

商品販売店舗：SOU・SOU足袋、SOU・SOU KYOTO 青山店

若林株式会社

〒604-8042 京都市中京区中之町583-3

TEL：075-212-8005

URL：https://www.sousou.co.jp/?mode=cate&cbid=122459&csid=85



京都新聞賞

<第4部門③>

参拝マステ

迫 健太郎・松沢 洋祐・くわざき ななみ

伝説の神社への長い長い石段が印刷されたマスキングテープ。石段を登りきった者にだけこの神社は姿を現し、参拝を受け入れるそう。この神社の神様は、きつとどんな”長い長いお願い”だって、聞き入れてくれることでしょう。





都鶴

藤本 愛美 (帝塚山大学)

都鶴という商品名から、
鶴を感じるデザインをコンセプトにしました。
左のラインは鶴のシルエットをイメージして、
振り返した部分は羽をイメージしています。
ビンには鶴の飛翔する姿を描き、
外装の素材は環境にやさしいPLAを使用しました。
ビンを外装から抜いた後も、
鶴を感じられるようにしました。



豆腐クルトン

井口 友翔 (専門学校アートカレッジ 神戸)

「とうふクルトン」は、京都という観光客が多い場所で商品を展開することを想定し、地域の方にも外国人観光客にも購入していただける豆腐として考案しました。さまざまな料理に彩りを加え、スープなどに振りかけることで、花が水面に舞い落ちるような風情ある「和」に触れることができ、国外にいても日本を感じさせるような商品です。海外では、豆腐の食感や味が苦手という意見が多くあるため、そういった方々も食べやすいように、乾燥という加工法を提案しました。生モノではなくなるので、持ち運びも簡単になるという利点もあります。パッケージやとうふクルトンの形には、外国人観光客の心をくすぐるような工夫として、日本を連想させる和の要素を用いています。特に、日本を象徴する桜の花びらや京都の特産品であるお茶畑、簪の花飾りとして使用される藤の花など、「和」と「商品展開の中心となる京都」を一緒に感じさせる植物を選択しています。

料理のアケントに、「振りかける豆腐」

とうふクルトン

訪日外国人をメインターゲットにしたお土産

フリーズドライも製造を思い、「振りかけること」を想定した提案です。様々な料理に振りかけられ、スープ等に振りかけることでお土産に贈りやすいような風情のある「和」を感じさせることができます。日本を象徴する桜の花びら、簪の花飾りとして使用される藤の花など、京都の印象を伝えるお土産の提案をしています。海外の方へお土産として贈ることも、ご家族やお友達に贈ることも想定しています。





京野菜くりっぷ

松田 紗弥 (帝塚山大学)

京野菜をモチーフとした「京野菜くりっぷ」です。

季節ごとに京野菜をモチーフとした紙クリップがあり、春「鹿々谷かぼちゃ」・夏「賀茂なす」・秋「伏見とうがらし」・冬「聖護院大根」の順にその季節ごとに紙クリップを楽しんで頂けます。

見本を除き、紙クリップをあえて着色しないことで、自分好みの色合いで色をあしらって頂けます。

梅結びは京の和文具に適したモチーフとして天神さん(菅原道真)からイメージしました。



めくりめぐる京都

土居 舞弓 (嵯峨美術短期大学専攻科)

ポスターというものは、通常、1枚の紙に印刷されていますが、そこに「めくる」という動作を取り入れることで、ポスターに直接触れる機会を作り、人々の興味を惹きつけられるのではないかと考えました。めくった次のページの絵柄と関連づけながらも、まったく違う世界が広がるような仕掛けになっています。これまでになかった新しい形を提案することで、ポスターの新たな可能性を探りたいと思い、めくれるポスターの制作に至りました。



入選

<第1部門>

ひとりじゃないかも

栗林 凜花（嵯峨美術短期大学）

鴨川をテーマにしたポスターを制作しました。鴨川には様々な人や生き物が集まるので、1人でいたとしてもひとりぼっちに感じない不思議な魅力があることを表しました。(鴨)川と、ひとりじゃない(かも)。ひ(とり)と、(鳥)などの言葉遊びもしているので、見ていてほっこりして頂けたらと思います。



入選

<第1部門>

お箸の贈り物

宮本 琴葉（嵯峨美術短期大学）

京野菜にちなんだ飾りのお箸入れ。贈り物にはもちろん、料亭等でもお使いいただけます。



紙素材でできた優しい色味のお箸入れ。
表は京野菜にちなんだ切り込みがされており、
見て、触って、京都を楽しめます。

贈り物としてはもちろん、料亭でも
食卓を華やかにしてくれます。

和裁の技術を用いた和服と洋服の循環 Ver.1 コート

Kimono Kirumono CYCLE PROJECT

伊藤 正浩・伊藤 宏宣

本作品は単に衣類をリメイクするのではなく、着物⇔洋服を相互に仕立て直す仕組みを持つコートです。着物は本来、必要最低限の裁断パーツで縫製されます。この仕組みでの洋服の型紙は、着物を裁断した同量の布から洋服に展開できるように設計しています。着物として着用した際（帯を締めた時）に縫い目が外に見えない箇所で裁断を行い、洋服に仕立てるためのパーツを確保するなどの工夫を取り入れました。この仕組みを活用して縫いを解き、縫製し直すことで別の服として再構築することが可能となっています。

販売価格（税別）：55,000円

商品販売店舗：http://kkcp.onepluso.com/

URL：http://kkcp.onepluso.com/

E-mail：kimono.kirumono.cp@gmail.com



Chameleon Band for Apple Watch

株式会社 日根野勝治郎商店

日根野 孝司・日根野 隆子

京都で三代続く悉皆屋、日根野勝治郎商店がつくった絹のApple Watch用バンド。

京友禅の職人が手染めした着物用の生地を表面に使用しています。

職人の手染めの技術、技法を最大限に引き出すことが出来る、着物用に特化した世界でも稀な約38cmの生地巾の絹に、手染めした生地には独特の色・柄・風合いがあります。

生地的美しさを最大限引き立たせるために、一から金型を設計しバンドのフォルムを作り上げました。

ミニマルなデザインでシャープな印象のベルトは、工芸品でありながら現代的なたたずまいを感じさせます。

ベルトの表面に手染めした絹の生地を、裏面は牛革を使用し、一点、一点、革職人が手作りしています。

生地や染めによって様々な表情を見せる一点もののバンドは、上下別々に購入頂くことができ、組み合わせによって気分やシチュエーション、スタイルに合わせて自由にコーディネート出来ます。

販売価格（税別）：6,000円～10,000円

商品販売店舗：GOOD NATURE STATION

〒602-0956 京都市上京区元誓願寺通東堀川東入西町454番地

TEL：075-417-0131 FAX：075-417-0132

URL：https://www.kyoto-someya.com/

E-mail：hinenokatsujirou@gmail.com



モザイク

尾方 夏子

建築や家具の制作過程でどうしても出てしまう木の端材。

その何にも利用できずに廃棄されてしまう端材を、小さな木製立体パズルのピースにしました。

作り手によって思いのままに、世界に一つだけのオリジナルインテリアとして新たな使命と生命を宿します。

また、京都北山の高品質な天然無垢の木材を肌で感じ、香りを楽しみ、指先を動かしながら作り手の創造力を刺激し、知育・認知予防の玩具としても活用できます。

大切な資源「木材」を捨てないことを突きつめて作られた『モザイク』は、生活シーンに合わせて何度でも新しい形に作り直して愉しむことができるため、SDGsの取り組みとして環境への配慮にも貢献します。『モザイク』は、ぬくもりのカタチを変えて、皆さまの、そして大切な方の暮らしに寄り添い続けます。

販売価格（税別）：5×5ベーシックセット ¥6,000

5×5、3×5モザイクセット ¥6,400

商品販売店舗：nukumori本店、<https://www.hina-nukumori.com/>

〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町50

TEL：075-644-9715 FAX：075-644-9715

URL：<https://www.hina-nukumori.com/>

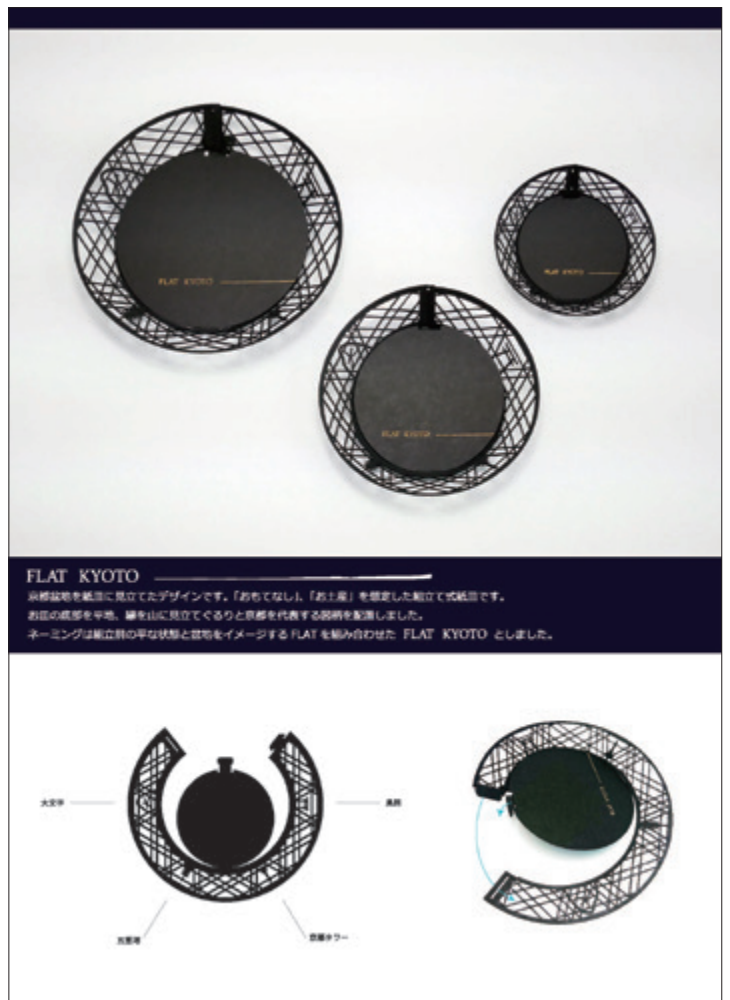
E-mail：nukumori.pro@gmail.com



FLAT KYOTO

帝塚山大学／有限会社CUE design service 深谷 友貴

京都盆地を紙皿に見立てたデザインです。「おもてなし」、「お土産」を想定した組み立て式の紙皿です。お皿の底部を平地、縁を山に見立てぐるりと京都を代表する図柄を配置しました。ネーミングは組立前の平らな状態と盆地をイメージするFLATを組み合わせた FLAT KYOTOとしました。



入選

<第3部門>

はなつつみ 京都華包研究会監修 SOU・SOU華包

SOU・SOU

「華包（はなつつみ）」とは…江戸時代の花傳書から伝わるもので、季節の花々を包んで贈答や儀式に用いられてきました。現代の生活空間の花飾りとして、意匠・素材をアップデートして復活させました。

「京都華包研究会」とは…京都の若手華道家が流派を越えて集結。メンバーは、芦田一春（遠州 宗家継承者）、大津智永（都末生流 副家元）、笹岡隆甫（末生流笹岡 家元）、杉崎翠山（喜堂末生流 家元）の4名。

販売価格（税別）：900円

商品販売店舗：SOU・SOU おくりもの、SOU・SOU KYOTO 青山店

若林株式会社

〒604-8042 京都市中京区中之町569-5

TEL：075-256-8114

URL：<https://www.sousou.co.jp/other/hanatsutsumi/>



入選

<第3部門>

SOU・SOU × Y'SACCS トートガマ

SOU・SOU

がま口とトートバックが融合したデザイン。2箇所の強力マグネットボタンでしっかり口が閉まります。1986年に誕生した京都のBAGブランド「Y'SACCS」とのコラボレーションライン。

販売価格（税別）：9,800円～

商品販売店舗：SOU・SOU 布袋、SOU・SOU KYOTO 青山店

若林株式会社

〒604-8042 京都市中京区中之町569-10

TEL：075-212-9595

URL：<https://www.sousou.co.jp/?no=0&mode=cate&cbid=666947&csid=0>



伏見の清酒「都鶴」

濱 沙由美

日本酒の味を決めるのは「水」である。

京都伏見に酒造を構える都鶴酒造はそう答え、水に感謝した酒造りを行なっています。

都鶴という名は長寿のシンボルである「鶴」と、千年の歴史を持つ「京都」を組み合わせで名付けられています。そんな都鶴が作り出す日本酒は、京都に流れる水とその水で育てられたお米で、冬季にのみ造られることが特長です。

本作品ではこの都鶴というブランドとその想いを表現するため、名の由来に込められた「京都」らしさと、都鶴がこだわる「水」をキーワードとしてデザインを検討。これらを叶えるモチーフとして枯山水を採用し、鶴の形状を展開しました。

鶴は羽根を広げる様子を紋様で表現。くちばしに見立てた3つの円と羽根を構成する主要な3本の線は、都鶴従業員3人での酒造りを想起させます。これを白色で描きフロスト瓶の上へ載せることで、全体として枯山水のような陰影と静寂を演出しています。



都鶴 えにし

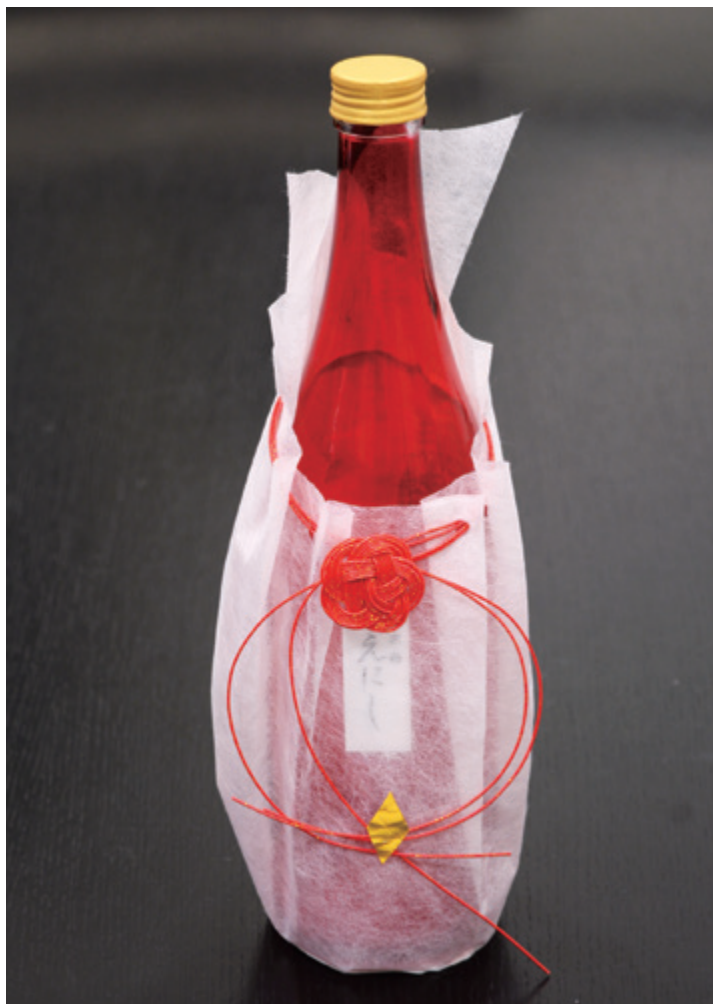
小笠原 千恵（帝塚山大学）

鶴の軽やかで優雅な姿を作品として表現しました。

「固い絆」を意味する梅結びを水引で正面につくり、日常とは違うハレの日を意識しました。

手に取っていただいた方々への縁を表現すると共に、贈り物として利用されることも想定して、

この商品が繋ぐ様々な縁が深まり、大きく広がっていけばと願っています。



誠のとうふ

見並 優花（専門学校アートカレッジ 神戸）

「誠のとうふ」は、京都で名を馳せた新選組をモチーフにした豆腐で、新選組が好きな方やそうでない方にも楽しんで頂けたらと思い、制作しました。豆腐を召し上がった後でも形に残るよう、再利用できるようなパッケージや小物のデザインを心がけました。新選組の隊士のパッケージはそれぞれの隊士の関係性や事柄に合わせて文字やだんだら模様の配置を変えています。また、召し上がって頂く時に、豆腐から「誠」の文字が浮かび上がる仕組みと、小さな刀で切ってもらう仕様にすることで、子どもから大人まで楽しんでもらうようにしました。



スティック豆腐

中須賀 仁紀（専門学校アートカレッジ 神戸）

「とうふすていっく」は、大人も子ども、おじいちゃんおばあちゃんもみんな大好きな、新感覚サクフワ食感のスティック状のお菓子です。味はプレーン、抹茶、梅、ほうじ茶、黒胡麻、唐辛子の6種類と豊富で、食べる人を飽きさせません。プレーンはそのままで美味しいですが、味噌や醤油につけても美味しいので、食べ方のバリエーションも豊富です。

豆腐が縦に刻まれているイメージイラストと、何味かのイメージイラストで、中身がわかりやすいデザインになっています。シンプルで落ち着いた色のある配色で、手に取りやすいパッケージとなっています。



ころんてまり

増南 悠乃（嵯峨美術短期大学）

京とうふを使った「ころんてまり」。

名前の通りころんとした可愛いてまりのお豆腐デザートです。付属の竹串でぶすつとさして出てきた豆腐を召し上げ。中には甘いソースが入っています。味はきなこ・さつまいも・まっちゃんの3種類。味によっててまりの柄も違うので悩むこと間違いなし。



BAR Kingdom

高橋勝建築設計事務所一級建築士事務所

高橋 勝

BAR Kingdomは京都の中心地四条河原町から歩いてすぐ、京町家を改修した、ゆっくり洋酒が飲める場所のプロジェクト。オーセンティックなBARです。

既存の京町家は看板町家となっており、四角いタイルで仕上げられたファサードでしたが、一歩中にはいと素晴らしい中庭がある丁寧な数寄屋風の設えとなっていました。店造りは既存建物の持つ個性と力を最大限活かし、クライアントのコンセプトと融合するような、静かで味わいのある空間を目指しました。

オーナーバーテンダーは数々の名店で腕を磨いてきた筋金入りのバーテンダー。とても優しい笑顔と美味しいお酒で、疲れた体と心を癒して頂けます。

〒615-0863 京都市右京区西京極堤町26-2

TEL : 075-275-6981

URL : <http://t-masaru.net/> <https://bar-kingdom.jp/>

E-mail : office@t-masaru.net



伝統工芸とオノマトペ ～オノマトペで広がる工芸品の世界～

京都美術工芸大学

安保 貴史・岩松 英里子・谷川 楓・岡島 みなみ・
古閑 謙太郎・加納 奈都・東 俊一郎

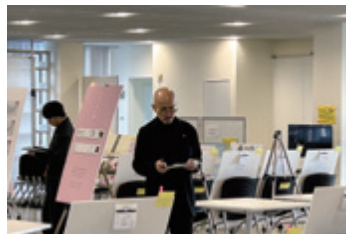
大規模マンガ・アニメイベント「京都国際マンガ・アニメフェア（通称：京まふ）」にて、京都伝統工芸大学の教員・学生が製作した工芸品の魅力を伝える出展ブースを京都美術工芸大学の学生がデザインした。

マンガの主要な表現手法「オノマトペ（音喩）」を展示デザインに用いることで、来場者層の興味に沿いながら関心を集め、また、鑑賞者が展示された工芸品の音や質感まで理解することを試みた。加えて、来場者による写真の撮影やソーシャルメディアなどでの発信を促すことができるよう、各年代での主な少女漫画のピンク色を抽出しブースの背景色に用い、マンガの吹き出しやトーンなどを展示デザインに取り入れることで、「映え」る空間の演出を行った。これらにより、イベントの主要な来場者である若年・青年や外国人に対し、伝統工芸やもののづくりへの興味を呼び起こすことを目指した。

〒605-0991 京都市東山区上堀詰町272 京都美術工芸大学

TEL：075-525-1515

URL：https://www.kyobi.ac.jp/



開催趣旨

京都には1200年の歴史が培った魅力的なデザインが多数存在しています。それらは現代においても引用され、新たな作品や商品開発に繋がっています。京都デザイン賞2023では、京都の伝統と文化を守りながら、新たなデザイン手法を用いて、新しい京都のデザインの創出を図る作品を募集しました。

募集部門

< 第1部門 >

グラフィックデザイン・パッケージデザイン

< 第2部門 >

ファッションデザイン・テキスタイルデザイン・キモノ

< 第3部門 >

プロダクトデザイン・クラフト・雑貨デザイン

< 第4部門 >

課題によるデザイン提案

課題① 伏見の清酒「都鶴」ラベル・パッケージデザイン

課題② 「京とうふ藤野」パッケージデザイン

課題③ 新しい京の和文具デザイン

課題④ 布素材を使った小物のデザイン

< 第5部門 >

映像

< 第6部門 >

建築関連デザイン

① 建築デザイン

② インテリアデザイン

③ 造園/環境デザイン

審査基準

- ◆ 斬新な京都のイメージを創出している。
- ◆ 独創性がある。
- ◆ 使いやすい配慮がなされている。
- ◆ 新素材、技術に挑戦している。
- ◆ 環境への配慮がなされている。

※全てに当てはまらなくても可

審査員

奈良磐雄 公益社団法人京都デザイン協会理事長 <審査委員長>

新井清一 建築家/ARAI ARCHITECTS代表取締役/京都精華大学名誉教授

木原三郎 株式会社TAKAYASU CBO & Creative Director

住谷晃也 造園家/株式会社杉景 代表取締役

滝口洋子 ファッションデザイナー/京都市立芸術大学教授

中島信也 株式会社東北新社 エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター/
CM演出家/武蔵野美術大学客員教授

村田智明 (株)株式会社ハーズ実験デザイン研究所 代表取締役/
大阪公立大学 研究推進機構21世紀科学研究センター
イノベーション教育研究所 客員教授/九州大学非常勤講師/
愛知県立芸術大学非常勤講師

八木 義博 株式会社電通 エグゼクティブ・クリエイティブディレクター/京都芸術大学 客員教授

京都府

京都市

京都商工会議所

京都デザイン協会正会員

募集期間

2023年6月30日(金)～2023年9月30日(土)

応募数

78点

審査結果

入賞10点 入選15点

入賞・入選作品展

2023年11月24日(金)～26(日)
ホールKeiryu (半兵衛麩五条ビル2階)

授賞式・作品講評会

2023年11月26日(日)
ホールKeiryu (半兵衛麩五条ビル2階)

交流会

2023年11月26日(日)
ふふふあん (半兵衛麩五条ビル3階)

京都デザイン賞 2023を支えていただいているサポーターに感謝します。

<主催>

公益社団法人 京都デザイン協会

<後援>

京都府
京都市
京都商工会議所
京都府中小企業団体中央会
京都新聞
NHK京都放送局
KBS 京都
エフエム京都

<協力>

(有)画箋堂
ギャラリー富小路
京とうふ藤野(株)
京都芸術家国民健康保険組合
嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学
(株)くろちく
(株)尚雅堂
(有)匠弘堂
(株)半兵衛麩
ホルベイン画材(株)
都鶴酒造(株)

<特別賛助会員>

有限会社中村清草園

<賛助会員>

(株)葵ホテル&リゾート
有限責任事業組合あきたデザインサポート
(株)エクザム
(有)画箋堂
(株)京都銀行
京都信用金庫
京都中央信用金庫
京都百貨店協会
(株)境田商事
(株)尚雅堂
(株)パルテごとう

<協賛>

京都芸術大学
京都精華大学
嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学
株式会社 俄
刀剣 開陽堂
(株)TAKAYASU
医療法人 奈良会
アーバンホテルシステム(株)
(株)アドヴァン
(株)アルク
(株)大西建築事務所
NPO 法人京都西陣町家スタジオ
(株)小林長
小林美工社
(株)JJI
(株)静好堂中島
ターナー色彩(株)
(株)ターレンスジャパン
(有)大進工務店
(有)ティアック
BAL(株)中澤ホールディングス
中島製版(株)
(株)西川紙業
(株)パルム
万朵花
(株)フクナガ
(株)メディアインパクト
加地金欄(株)
(株)中津商店
まつもとクリニック

公益社団法人 京都デザイン協会

〒602-8061 京都市上京区油小路中立売下ル甲斐守町97番地

tel 050-3385-8008 fax050-3385-8009

mail : info@design.kyoto

kyoto.design@gmail.com

www.design.kyoto

